



動物や植物、はては空想の生き物まで、Jリーグクラブを彩るマスコットはそれぞれ地元地域にちなんだものをモチーフにしている場合が多い。北海道コンサドーレ札幌のマスコット「ドーレくん」は、シマフクロウがモチーフだ。

そのドーレくんがデビューして今年で20周年を迎えた。記念すべき年を後押しするように、コンサドーレの選手が着るユニフォームにはシマフクロウがデザインされている。J2優勝を果たし、今年J1の舞台で戦っているチームの最大の目標はJ1定着。その願いを込め、北海道のアイデンティティのひとつともいえるシマフクロウを背負って戦い続けている。ドーレくん同様20周年を迎えたJリーグ初のダンスドリルチーム「コンサドールズ」も想いは同じだ。“勝利の女神”たちが舞う今年の曲は「フェニックス」。ドーレくんを、コンサドーレをJ1定着に導く神の鳥に見立て、北海道の誇りであるシマフクロウを守るパフォーマンスをスタジアムで披露している。

事務局便り

● 当会顧問の山本純郎さんが皆さんの質問にお答えします

普段気になっているシマフクロウのこと、何でも結構ですので事務局までお寄せください。お待ちしております。

● 入会を募集しています

引続き当会の趣旨にご賛同いただける個人の皆様の入会を募集しております。

ホームページからも入会の手続きが可能となっておりますのでご覧ください。

北海道シマフクロウの会 事務局 (担当: 米谷・山内・北口)

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 北海道二十一世紀総合研究所 内

TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683 URL:hokkaido-shimafukurou.org

北海道シマフクロウ通信

北海道シマフクロウの会 会報

第14号



北海道の野鳥とその生息地を守る～日本野鳥の会の活動～

公益財団法人 日本野鳥の会 保全プロジェクト推進室 中村 聡
 ウトナイ湖サンクチュアリ チーフレンジャー

シマフクロウとその生息地を守る

シマフクロウは1900年代には1000羽以上が生息していたと推定されるが、開発により1970年代には70羽程度まで減ってしまった。最近では保護活動により50つがい、140羽程度まで増えてきた。日本野鳥の会は2004年からシマフクロウの保護活動に取り組んでおり、野鳥保護区を設置し、現在残された生息地を守ることや新たに生息できる場所を創る活動をしている。シマフクロウの生息地のうち法的に守られていない民有地については、購入したり、所有者と協定を結んだりして、現在シマフクロウのための野鳥保護区は5地域、11箇所、886ヘクタールとなり、生息している50つがいのうち10つがいの保護に貢献している。

また、調査や保護に、企業との連携もしている。メーカーからICレコーダーの提供を受け、森に設置し、シマフクロウの鳴き声を確認する方法で新たな生息地を見つけた。また、集まったデータからシマフクロウの鳴き声だけを検出するソフトを電機機器会社に開発していただいた。それを用いて行動圏を詳しく調査し、製紙会社の社有地で企業活動とシマフクロウ保全の両立をはかる覚書を結んだ。

ウトナイ湖と勇払原野の保全について

勇払原野は札幌の北から続く石狩低地帯の、最も南に位置する、ウトナイ湖を含めた広い地域である。今も縄文遺跡が発見されるなど、長い歴史があり、アイヌの人々が暮ら

していた。また、蝦夷地防衛の一環として開拓が早く進んで農地化された後、1969年に大規模な工業開発計画により農地は工業用地となったが、景気悪化等により土地の分譲が進まず、一部では自然が回復してきたものの、1953年からの約30年間を見ると、勇払原野の湿原の約80%が失われている。

勇払原野には過去の湿原の姿を小面積ながら今なお留めている場所が認められ、その保全が必要となっている。さまざまな自然環境が点在し、「日本の重要湿地500」にも選ばれている。また、北海道が策定した生物多様性保全計画の中にも勇払原野の保全に関する記載がある。ウトナイ湖を含む勇払原野で確認された野鳥は約270種であり、日本で記録された野鳥、約630種のうち半数近くが勇払原野で確認されている。

ウトナイ湖サンクチュアリの中心施設、ネイチャーセンターでは環境教育（普及教育・人材育成など）、保護（鳥類調査、外来植物対策、要望書提出など）等の活動を行っている。現在、重点的に保護活動を進めているのは、約1万ヘクタールある苫小牧東部開発地域（苫東地域）内の安平川（下流部右岸）湿原や弁天沼を中心としたエリアである。ここは数年前に河道内調整地（遊水地）の設置が決まり、治水と野鳥の生息地保全が両立した区域となる予定である。しかし、保全のための法的な網掛けはされていないため、湿地保全に関するラムサール条約に登録されるよう、活動を行っている。

日本野鳥の会はこれからも様々な形でのご支援やご協力、協働などにより北海道の野鳥とその生息地を守る活動を進めていきます。

(平成29年3月13日講演会より要旨)

事務局より 「シマフクロウ一家の見守り日記」で雛が成長中!

北海道シマフクロウ通信第10号(H28/4)でご紹介した、当会顧問の北海道学園大学早矢仕教授と当会連携先である「しまふくろう会議」により運営されているウェブサイト「シマフクロウ一家の見守り日記」で、今年孵化した雛が育

っていく様子が見られます。

2017年のページを見るためにはID・パスワードが必要ですので、次の当会会員用のものでログインしてください。

可愛いシマフクロウの雛を温かく見守りましょう。

URL ● http://k-rms.info/rmsdir/contents/owl_mon/top.html

ID ● ezofukurou
 パスワード ● fuku0933



イラスト：森さやか

シマフクロウの生態 ● 番外編 World Owl Hall of Fame

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎



『シマフクロウ』 シマフクロウ 生態等を説明するイリノイのラプターセンターの職員



ハービーイーグル 放鳥に向けて訓練中



食事会の料理



顔ペインティング



フクロウツリー



飛行訓練中のアメリカワシミズク 撮影：ニールさん

受賞者/右からコーディネーターのカーラさん 功績賞のジョナソンさん チャンピオンのロッキーさん、私

今回は私事で申し訳ないですが2017年度 World Owl Hall of Fame (フクロウの殿堂) で功績賞を受賞しました。

2015年度にはフクロウ自身に贈られる Lady Gray'l Award で人工孵化したシマフクロウ(ドン)が受賞しましたが、今回は人に送られる賞です。受賞理由は長年シマフクロウの保護等に携わり、とりわけ著書『シマフクロウ』(1999 北海道新聞社出版局)が評価されたことです。

授賞式はミネソタ州ヒューストンで毎年行なわれる International Festival of Owls で行なわれました。このお祭りは15年も続けられており、参加者も2000人を超える盛大なものでした。各イベントは殆どボランティアによってまかなわれフクロウに関することだったら何でもありで、笑い驚きの連続でした。

潜在中は、フクロウウォッチングは勿論のこと、ミネソタ大学のラプターセンター、ワバジャのイーグルセンター、イリノイ州のラプターセンター、またツルの研究の第一人者アーチボルト博士の計らいで国際ツル財団を案内していただき、大変有意義な日を過ごしました。中でも放鳥に向けての訓練中のハービーイーグル(オオギワシ)をまじかに見られたことは圧巻でした。この体験を無駄にせず一層の努力を改めて心に誓いました。あまりにも盛りだくさんで語りつくせません。いつか機会がありましたら紹介したいと思います。